

川へのおもい



専務理事 土屋 進

この度、専務理事に就任いたしました土屋進です。よろしくおねがいします。

ところで、エルニーニョ現象の影響で、台風第1号の発生が遅れましたが、中南米や東南アジアでは干ばつに見舞われ、世界的食糧難がこれからの不安材料になりそうです。食糧の確保は、現在のところ自然現象の営みにゆだねられていることを改めて感じます。そして人間側の都合で、自然に無謀な働きかけをすれば、自然は大規模な山火事や連年の洪水等をもって報復してくることも私たちは知っています。利便性や快適性を追いつけている人間生活が、地球の持つ自然という宇宙に少なからず悪い影響を与えています。それはオゾン層の破壊や地球の温暖化現象であり、酸性雨や海洋汚染等といった地球環境問題です。この問題は、知らず知らずの内に徐々に時間をかけてボディーブローで利いてくると思います。世界がこれからも持続的に発展し続けるには、これらの環境問題に対する対応策を講じながら、深刻な南北問題を克服していく必要があります。私たちが貴重な資源や自然を次の世代に引き渡していくのに避けて通れない試練です。

我が国は世界の資源を輸入し、製品を輸出する加工貿易で成長をしてきましたが、製品の製造過程によるものが、最近では地下水汚染、酸性雨、内分泌攪乱化学物質、温暖化現象等が話題となっています。被害者が実は加害者であることがあります。資源を加工処理する際に発生する諸々の残滓、加工処理された製品の使用後の最終処理、処分方法にまで立ち返っての議論を深めることが大切です。

ところで、河川環境の善し悪しは、その河川の流域が持つ社会環境や自然環境の状況の善し悪しを表しています。河川は清流も濁流も区別なく迎え入れて流れます。流域に降った雨は、その一部を地下水や湧水に変えますが、大部分は山林、農耕地、居住地等が持っている生活反応の残滓を万遍なく集めて、河川に流れ込みます。河川を良くすることは、流域の置かれている状況を改善することです。それには流域内の諸活動に制約がかかることも考えられ、大変な努力が必要です。

これまで、治水機能をまず充足する施策を実施してきたので、自然環境等への配慮を欠いたり、その地域が持っていた歴史や文化に深い思いを持って接してこなかったと指摘されています。その結果、洪水の時や水不足の時を除いて地域住民の関心は河川から離れていってしまっているのです。このような状況ですが、とにかく流域に住む人たちが普段の河川がどんな状態なのかを知ることが、河川への関心を取り戻す第一歩となります。

河川への関心や河川の魅力を取り戻すには、水量の回復と水質の改善が最も重要で、水量の確保は河川の持つ様々な機能の源として必要であり、河川の景観を復元する大きな要素となっています。河川の流量は連続して豊かに流れていることが、生態系を始め河川の環境にとって大切です。堰や用排水系統の統廃合の考え方をもう一度整理してみても如何かと思います。水質の改善は生態系の多様性へのインパクトとなりますが、地下水汚染等、水循環の健全性からも重大な課題を含んでいます。

河川の生態系調査も手がけられていますが、私たち人間も生態系の一構成員であるという基本認識を持つことが大切です。人間だけが快適性や利便性をまっしぐらに確保してきたので、流域内は開発され、土地の利用形態も大きく変更されました。この為、良好な生態系空間は河川区域等かなり限定した区域にしか残っていない状態になりつつあります。それでも最近では、流域内の自然地を積極的に保全したり、耕作放棄地や遊休地等を遊水効果と合わせ、生態系の生育・生息場所として保全することの必要性が再認識されつつあります。河川区域から流域へ広がる生息場所の連携を確保し、強めていくことは生態系にとって大切なことです。

水辺については、これまで多自然型川づくりとして調査研究と施工を繰り返しながら、改善に努力しています。それぞれの河川の洪水時や濁水時、平常時の水の流れ方や砂れきの動き方を理解し、治水と環境を車の両輪としたその川独自の河川づくりを考えていくことが大切です。そしてこの川づくりは、自然の力を上手に引き出す手だてまでを実施し、その後は水や土砂の流れが自然に富んだ好ましい河川をつくることを期待します。従って自然からの返答を受けながら、試行錯誤を繰り返して河川づくり実施していくのがよいと思います。自然の営力を期待しない日本庭園風自己完結型の河川や、その河川の付近には存在しない巨石や岩を遠くから搬入したために調和のとれていない河川もあります。

河川が抱えている課題はまだ数多くありますが、勇気を持って一つづつ解決していくことが大切です。歴史や文化や伝統に溶け込んだ河川づくり、地域の特色を打ち出した河川づくりを進めるには、地域住民の方々の意志がこれまで以上に重要になってきます。

当センターは幅広い様々な課題に挑みながら、次世代に残せる河川づくりに努力を続けて参りますので、今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願いいたします。